

# 芦別市災害備蓄計画

[計画期間：令和5年9月～令和10年8月]



令和5年9月

芦別市

# 目 次

<b>1</b>	<b>はじめに</b>	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>備蓄計画の基礎的な考え方</b>	<b>1</b>
	(1) 行政備蓄について	
	(2) 家庭内備蓄について	
<b>3</b>	<b>被害想定等</b>	<b>2</b>
	(1) 想定条件	
	(2) 避難者の予測	
<b>4</b>	<b>備蓄交付対象者</b>	<b>3</b>
	(1) 家庭内備蓄の対象	
	(2) 備蓄交付対象者	
<b>5</b>	<b>主要な指定避難施設</b>	<b>3</b>
<b>6</b>	<b>備蓄品目及び目標数量</b>	<b>3</b>
	(1) 食料	
	(2) 生活必需品	
	(3) 防災用資機材	
	(4) 感染症対策物品	
<b>7</b>	<b>整備計画</b>	<b>9</b>
	(1) 食料	
	(2) 生活必需品	
	(3) 防災用資機材	
	(4) 感染症対策物品	
<b>8</b>	<b>備蓄場所</b>	<b>9</b>
<b>9</b>	<b>災害協定の活用</b>	<b>10</b>
<b>10</b>	<b>その他資料</b>	<b>10</b>
	(1) 「災害協定一覧表」	
	(2) 「年度別備蓄計画」	

## 1 はじめに

市では、「芦別市地域防災計画」に基づき、災害時における協力体制に関する各種協定等を計画的に締結し、不測の事態に備えて、必要最小限の非常食や毛布、各種資機材等の備蓄を行っています。

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする東日本大震災では、マグニチュード9.0、最大震度7.2が観測され、平成27年1月警察庁のまとめによると、死者15,889人、負傷者6,152人、行方不明者2,592人、住宅被害も全壊・半壊401,567棟発生し多くの尊い人命が失われるとともにライフラインや道路、鉄道、港湾などの交通手段が寸断し、市町村公共施設にも大きな損害を受けました。

近年では、急変する気象の影響による集中豪雨（ゲリラ豪雨）による浸水や土砂災害、大雪・暴風雪による視界不良等による通行止め等が全国各地で頻発しており、平成30年9月6日には、北海道胆振東部地震が発生し、本市においても震度4の揺れを観測し、その後北海道全域が停電となるブラックアウトとなり、最大44時間の停電が発生するなど市民の生命・身体及び財産を守る防災の取り組みは最重要課題となっています。

災害はいつ発生するかわかりません。本市においては、過去の災害状況などから市全域的な規模で自然災害が発生する可能性は低いものと考えていますが、想定を超える自然災害に対応するためにも備えをしっかりとしておくことが重要であるほか、令和元年に入り新型コロナウイルス感染症が世界規模で流行していたことから、避難所を開設する場合には3密を避けるほか、体調不良者を避難施設内で分けるなど感染症対策も踏まえた備蓄を行うことが必要となっています。

このような状況を踏まえ、災害時に迅速・円滑な応急対策活動に資するための備蓄体制の確立を図ることを目的に「芦別市災害備蓄計画」に基づく災害等に備えた備蓄品を常備することで「安全・安心なまちづくり」を推進するものです。

## 2 備蓄計画の基礎的な考え方

災害時の備蓄体制は、①自助（自分の備えは、自分で行う。）、②共助（地域や職場で助け合う。）、③公助（公的機関が支援を行う。）を基本的な考え方とし、最低限必要な家庭内備蓄と市が行う行政備蓄を整備することで、市民・行政が一体となって構築することを目標としており、次のとおり基本的な考え方を提示します。

### (1) 行政備蓄について

行政備蓄とは、市が平時から実施する食料等の備蓄のことで、大規模災害時には家屋の倒壊、焼失等により多数の避難者及び負傷者の発生が想定されることから、市は平時から食料、生活必需品及び防災用資機材の備蓄を行います。

### (2) 家庭内備蓄及び非常持出し品について

家庭内備蓄とは、市民が自らの家庭内において最低3日間（推奨7日間）程度の食料や飲料水、ラジオ、懐中電灯、医薬品等の備蓄を行うなど、日頃から災害時に必要な物資を蓄えておくことで、災害発生直後には食料品等の確保が困難になることが想定されるため、表-1の品目について各家庭での備蓄や非常持出し品として準備に努めるよう、市ホームページ、防災ガイドブック及び広報紙等を通じて啓発に努めます。

[表-1] 家庭での備蓄及び非常持出し品

区 分	品 目
食 料	アルファ米、米、レトルト主食、冷凍麺、即席めん、乾めん、乾パン 菓子類、各種缶詰、粉ミルク、離乳食等
飲料水	ペットボトル等（1人当たり1日3リットル以上）
常備品等	衣類、毛布、タオル、ティッシュ、マスク、消毒液、体温計、懐中電灯（乾電池含む。）、ローソク、ライター、救急医療品、常備薬（手帳も含む。）、携帯電話及び充電器、携帯ラジオ、雨具、長靴等
まとめておく物	現金、預貯金通帳（キャッシュカード）、印鑑、免許証、健康保険証、マイナンバーカード、権利証書等

### 3 被害想定等

避難の実施については、風水害・土砂災害・地震等の各種自然災害が考えられますが、東日本震災のような大規模災害となった場合でも、円滑な応急対策活動が求められることから想定災害を「地震」として、芦別市耐震改修促進計画（平成24年3月作成）の建築物の被害割合に基づき算出します。

#### (1) 想定条件

- ア. 想定災害 直下型地震（震度5強）
- イ. 建物被害は、住宅・土地統計調査（平成30年3月）の市内の居住住宅棟数と、地震想定は直下の地震（震度6弱）で算出します。

住宅総数		木造建築物	非木造建築物	合 計	割 合
6,310 棟	全壊棟数	151 棟 (2.4%)	20 棟 (0.3%)	171 棟	2.7%
	半壊棟数	1,268 棟 (20.1%)	107 棟 (1.7%)	1,375 棟	21.8%

※「全壊」は、住宅の損害割合が50%以上、「半壊」は、損害割合が20%以上50%未満

- ウ. 避難者数は、地震発生後の経過時間により推移しますが、想定では発災直後の想定数とします。
- エ. 人口、世帯数は住民基本台帳人口（令和5年3月末現在）で算出します。

人 口	世帯数	1世帯当たりの平均
11,790 人	6,886 世帯	1.7 人

## (2) 避難者の予測

ア. 建物全壊による避難者数（全壊での避難率を100%と想定する。）

$$6,886 \text{ 世帯} \times 2.7\% \times 1.7 \text{ 人} \doteq 316 \text{ 人}$$

イ. 建物半壊による避難者数（半壊での避難率を50%と想定する。）

$$6,886 \text{ 世帯} \times 21.8\% \times 1.7 \text{ 人} \times 50\% \doteq 1,276 \text{ 人}$$

ウ. 避難者数

$$316 \text{ 人} + 1,276 \text{ 人} = 1,592 \text{ 人}$$

エ. 避難世帯数

$$1,592 \text{ 人} \div 1.7 \text{ 人} \doteq 937 \text{ 世帯}$$

上記算出により、本計画の想定避難者数は、1,592人 937世帯 と想定します。

## 4 備蓄交付対象者

### (1) 家庭内備蓄の対象

想定避難者の内、家庭内備蓄の期待できる対象は、厚生労働省の「国民健康・栄養調査（令和元年11月調査）」から、北海道の家庭内備蓄率55.0%を用いて算出します。

$$936 \text{ 世帯} \times \text{家庭内備蓄率 (55.0\%)} \doteq 515 \text{ 世帯}$$

$$515 \text{ 世帯} \times 1.7 \text{ 人} \doteq 876 \text{ 人}$$

### (2) 備蓄交付対象者

「芦別市耐震改修促進計画」に基づき、震災の発生により、建物の全壊・焼失のため、避難所で生活することを余儀なくされ、物資等の確保が困難な方とします。

$$1,592 \text{ 人 (想定避難者数)} - 876 \text{ 人 (家庭内備蓄期待対象)} \doteq 716 \text{ 人}$$

$$716 \text{ 人} \div 1.7 \text{ 人} \doteq 422 \text{ 世帯}$$

当面、市が行う備蓄交付対象者は、716人 422世帯を目安として備蓄数量の算出を行うこととします。

## 5 主要な指定避難施設

主要な避難施設は、指定避難施設36箇所の内、国民保護計画で指定している、芦別市総合体育館、芦別小学校、芦別中学校、上芦別小学校、芦別高校、勤労者体育センター、子どもセンター、本町地区生活館、常磐多目的研修センター、黄金多目的研修センター、啓南多目的研修センター、上芦別多目的研修センターの12箇所に、収容数の多い総合福祉センター及び宿泊交流センターの2箇所を加えた14箇所とします。

## 6 備蓄品目及び目標数量

備蓄品目は、家屋の倒壊、焼失等により避難した住民にとって緊急性があり、災害発生から救援物資が到達するまでの間に必要不可欠な食料や生活必需品などを選定します。

また、災害復旧や避難所等運営に必要な防災資機材についても選定します。

なお、年齢区分別に必要な備蓄品については、表-2のとおり、備蓄交付対象者の年齢区分に合わせて算出することとします。

[表-2] 年齢区分及び備蓄交付対象者数

年齢区分	備蓄交付対象者数	年齢構成割合	必要となる主要備蓄品
0歳	2人	0.3%	粉ミルク、アルファ米（かゆ）、紙おむつ （乳児用）哺乳瓶 ※5人とする
1～4歳	11人	1.5%	
5～74歳	500人	69.9%	アルファ米、アルファ米（かゆ）
75歳以上	203人	28.3%	アルファ米（かゆ）
合計	716人	100.0%	
注1) 10～49歳女性	91人	23.6%	生理用品（対象女性割合）
注2) 要介護認定3以上	17人	2.4%	紙おむつ（高齢者用）

※ 年齢構成割合は、住民基本台帳（令和5年3月末）の構成割合とする。

※ 各年齢区分等において、算定数値が5人以下の場合は5人とする。

注1) 生理用品の対象となる10～49歳女性は、総人口（令和5年3月末人口）の女性割合54.0%の内10～49歳の割合は23.6%

備蓄交付対象者 716人 × 54.0%（女性割合） = 387人

387人 × 23.6%（10～49歳女性割合） = 91人

注2) 要介護者は、介護保険事業状況報告（令和5年3月末）の要介護3～120人、要介護4～96人、要介護5～71人に基づき算定する。

要介護認定3以上 120人+96人+71人 = 287人

構成割合 287人 ÷ 11,790人（令和5年3月末人口） × 100 = 2.4%

また、新型コロナウイルス等の感染症対策として必要な物品についても備蓄を行うこととし、表-3の施設と人員に基づき算出し、表-4のとおり備蓄するものとする。

[表-3] 感染症対策として使用する収容人員の多い指定避難所

施設名	収容人員	施設名	収容人員
芦別小学校	62人	総合体育館	246人
上芦別小学校	59人	勤労者体育センター	82人
芦別中学校	78人	総合福祉センター	46人
芦別高校	60人	宿泊交流センター	83人

（収容人員合計 : 716人）

※ 感染症対策時は、1人当たり9㎡として算定。

※ 総合体育館は、最大でメイン及びサブ体育館、会議室、健康管理室で261人収容と計画しているが、体育館と会議室の合計246人として避難対象人数と整合を図る。

[表-4] 感染症対策物品の備蓄対象者等

区 分	対 象	感染症対策物品
交付対象者（収容人員）数	716人	不織布マスク
収容人員の多い指定避難所数	8箇所	環境除菌洗剤、手指用消毒液、フェイスシールド、使い捨て手袋、ペーパータオル、工場扇、検温測定器、非接触型温度計 段ボールベッド、簡易ベッド、間仕切り
避難所において対応する職員数	40人	防護服（5人×8箇所）

※ 宿泊交流センター2号館には、ベットが常設されているが、1人当たりの必要面積9㎡が確保できないことから、簡易ベット等の必要数量の算定に考慮しないものとする。

### (1) 食 料

災害発生後、3日目以降は救援物資の到着が予想されることから、備蓄交付対象者に対し1日3食×3日分を目標に表-5のとおり備蓄します。

[表-5] 食料備蓄品目及び目標数量

品 目	備蓄交付対象年齢	備蓄目標	算定方法等
アルファ米(かゆ)	1~4歳	99食	交付対象数 11人×3食×3日(保存期間5年)
アルファ米	5~74歳	4,500食	交付対象数 500人×3食×3日(保存期間5年)
アルファ米(かゆ)	75歳以上	1,827食	交付対象数 203人×3食×3日(保存期間5年)
粉ミルク	0歳	2,145g	交付対象数(保存期間1.5年) ※1人当たり1回の調乳量 0歳児9か月から12か月の赤ちゃんが飲む量 1日5回(粉ミルク143g) 143g×3日×5人=2,145g 粉ミルクキューブ 27g×16袋×5箱=2,160g
液体ミルク		—	保存期間が短いため、備蓄に向いていないことから、必要な場合は協定により確保する。
飲料水(保存水)	全年齢	6,444ℓ	交付対象数 716人×3ℓ×3日(保存期間12年) (飲料・食事に使用) ※その他に給水車からの給水を活用し、必要量を確保する。

## (2) 生活必需品

生活必需品は、食料品と同様に災害発生後3日目以降の救援物資の到着が予想されることから、備蓄交付対象者に対し3日分を目標に表-6のとおり備蓄します。

[表-6] 生活必需品備蓄品目及び目標数量

品目	備蓄交付対象年齢	備蓄目標	算定方法等
哺乳瓶(240ml)	0歳	15本	交付対象数 5人×1本/日×3日
紙おむつ(乳幼児用)	0~4歳	312枚	交付対象数 13人×8枚/日×3日
紙おむつ(大人用)	要介護認定3以上	306枚	交付対象数 17人×6枚/日×3日
生理用品	10~49歳女性	1,365枚	交付対象数 91人×1袋(15枚入り)
毛布	全年齢	716枚	交付対象数 716人×1枚
寝袋	全年齢	716個	交付対象数 716人×1個
アルミ保温シート	全年齢	716枚	交付対象数 716人×1枚
組立式簡易トイレ(本体)	全年齢	14個	交付対象数 716人÷50人×1個 ※50人に1個として換算
非常時用排便収納袋(スケットイレ)	全年齢	3,580枚	交付対象数 716人×5回×1日(ラップ ポントイレもあるため1日分とした。)
救急セット	全年齢	36個	指定避難施設36カ所に各1個 (富良野市と協定による避難所は除く。)





### (3) 防災用資機材

防災用資機材は、食料や生活必需品同様に、災害発生後3日目以降には救援物資の到着が予想されることから、想定避難者の収容に必要な最低限の資機材の確保を目標に表-7のとおり備蓄します。

[表-7] 防災用資機材備蓄品目及び目標数量

品 目	備蓄目標	算定方法等
LED非常灯	29台	交付対象数 716人÷25人 ※25人当たり1台として換算
LED懐中電灯	29個	交付対象数 716人÷25人 ※25人当たり1個として換算
防災用ラジオ(手回し充電式)	29台	交付対象数 716人÷25人 ※25人当たり1台として換算
投光器(250W)	15台	交付対象数 716人÷50人 ※50人当たり1台として換算
カセットコンロ	29台	交付対象数 716人÷25人 ※25人当たり1台として換算
カセットボンベ	87本	カセットコンロ1台当たり3本として換算
対流型石油ストーブ	84台	交付対象数 716人÷15人=48台 ※15人当たり1台として換算 受付等 36台(各避難所1台)
灯油用ポリタンク(18ℓ)	84個	石油ストーブ1台当たり1個として換算
ガソリン発電機	8台	交付対象数 716人÷100人 ※100人当たり1台として換算
コードリール	16個	発電機1台当たり2個として換算
ガソリン燃料用携行缶(18ℓ)	24缶	発電機1台当たり3缶として換算
LPG発電機	8台	交付対象数 716人÷100人 ※100人当たり1台として換算
LPG発電機用カセットボンベ	48本	LPG発電機1台当たり6本として換算 ※連続使用 2本で約1時間
拡声器、メガホン(ハンド型))	15台	交付対象数 716人÷50人 ※50人当たり1台として換算
ブルーシート(防水シート340×350)	15枚	交付対象数 716人÷50人 ※50人当たり1枚として換算
土のう袋(30×60)	5,000枚	砂詰め済1,000個、空袋4,000枚
バール(900mm)	14本	主要な指定避難施設に各1本(台・個)として換算 ※主要な指定避難施設14カ所
ジャッキ(油圧3t)	14台	
のこぎり(折込330mm)	14本	
スコップ(剣先)	14本	
電源タップ(3つ口3m)	14個	

#### (4) 感染症対策物品

感染症対策品は、食料や生活必需品等と同様に、災害発生後3日目以降は、救援物資の到着が予想されることから、想定避難者の収容に必要な最低限の感染症対策物品の確保を目標に表-8のとおり備蓄します。

[表-8] 感染症対策物品備蓄品目及び目標数量

品 目	備蓄目標	算定方法等
不織布マスク	4,296 枚	交付対象数 716 人×2 枚×3 日
簡易トイレ (ラップポイントイレ)	24 台	表-3の8 指定避難所に各3 台 (張) と して換算 消耗品は 716 人×5 回×3 日
ラップポイントイレ消耗品 (50 枚/箱)	215 箱	
簡易トイレ用テント	24 張	
環境除菌洗浄剤 (520 ml)	72 本	表-3の8 指定避難所に各3 本×3 日と して換算
手指用消毒液 (500 ml)	144 本	表-3の8 指定避難所に各6 本×3 日と して換算
フェイスシールド	480 枚	表-3の8 指定避難所に各20 枚×3 日と して換算
使い捨て手袋	4,800 組	表-3の8 指定避難所に各200 枚×3 日 として換算
ペーパータオル	24,000 枚	表-3の8 指定避難所に各1,000 枚×3 日として換算
段ボールベッド	203 組	対象数 716 人×28.3% (75 歳以上)
簡易ベッド	513 台	対象数 716 人×71.7% (75 歳未満)
間仕切り	422 組	収容人員 716 人÷1.7 世帯 段ボール製、ワンタッチパーテーション
防護服上下	360 組	対応する者を5 人と仮定し、1 日12 枚 (2 時間に1 枚) で2 ヲ所 5 人×12 枚×2 ヲ所×3 日として換算
工場扇	32 台	表-3の8 指定避難所に各4 台として換 算
検温測定器 (入口用)	8 台	表-3の8 指定避難所に各1 台として換 算
非接触型温度計	8 台	
床敷クッション (アルミマット)	422 枚	収容人員 716 人÷1.7 世帯

## 7 整備計画

備蓄の整備に係る計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とし、総量を定めるための各区分における整備計画を以下のとおりとします。

なお、本計画により整備した備蓄品は、大規模な災害等の発生により応急援助を必要とする者がいる時や、広域的災害における他自治体への支援など、人道的見地から必要と認められる場合には幅広く活用することとします。

### (1) 食料

食料は、保存期間を考慮しながら年次的に備蓄を実施していくこととし、可能な限り保存期間が長期間のものを購入することに努めます。

よって、液体ミルクについては保存期間が6ヶ月から12ヶ月であり、備蓄には適していないため、必要な場合については協定により確保するものとし、保存期間が1.5年間の粉ミルクを毎年必要数量分備蓄することとします。

なお、保存期間が残り1年未満となった食料及び飲料水については、防災訓練時に配布するほか、市のイベント等で活用することにより、市民の防災意識の高揚を図るほか、食品ロスが生じないローリングストックに努めます。

### (2) 生活必需品

生活必需品は、保存状況や衛生面を考慮しながら年次的に備蓄を実施していくこととします。

なお、備蓄物資として適さなくなった生活必需品については、可能な範囲で公共施設等において再利用するものとします。

### (3) 防災用資機材

防災用資機材は、保存状態を確認しながら年次的に備蓄を実施していくこととします。

なお、非常用発電機については、定期的な運転点検、消耗品の交換などメンテナンスを行います。

### (4) 感染症対策物品

感染症対策品は、保存状態を確認しながら年次的に備蓄を実施していくこととします。

## 8 備蓄場所

備蓄場所については、大規模及び広域的な災害が発生した場合においても、迅速な初動対策が実施できるように、拠点となる避難所に備蓄することが最良ですが、備蓄品の保管スペースの確保や管理が困難なことから、必要な備蓄品を迅速に運搬できる体制をつくることとし、備蓄場所は本市の災害対策本部となる市役所別館倉庫及び旧保健センターに分散して備蓄することとします。

施設名	住所	主な備蓄品
市役所別館倉庫	北1条東1丁目3番地	防災用資機材
旧保健センター	本町17番地の31	食料、生活必需品、感染症対策品

## 9 災害協定の活用

本市と企業等があらかじめ災害に係る協定等を締結し、災害発生時には必要な物資等が企業等から調達できるように体制を整えていきます。

特に市内や全国的に展開している企業等と災害に係る協定を締結することにより、緊急時には、迅速な物資等の供給による救援体制の強化が図られます。

## 10 その他資料

- (1) 「災害協定一覧表」別紙－1
- (2) 「年度別備蓄計画」別紙－2

※ 災害協定者及び備蓄数については、実績に合わせて毎年度修正を行うものとする。

## 年度別備蓄計画 (R6~R10)

区分	品名等	対象年齢等	既備蓄数	単位	R6 2024.04 ~ 2025.03	R7 2025.04 ~ 2026.03	R8 2026.04 ~ 2027.03	R9 2027.04 ~ 2028.03	R10 2028.04 ~ 2029.03	備蓄目標	備考
食料等	アルファ米 (かゆ)	対象年齢 0~4歳 保存期間 5年	50	食	100					99	2024.10期限 50食
	アルファ米	対象年齢 5~74歳 保存期間 5年	6,895	食		900	900	900	900	4,500	2024.09期限1,310食 2025.10期限2,100食 2026.09期限3,000食
	アルファ米 (かゆ)	対象年齢 75歳以上 保存期間 5年	2,596	食		500	500	500	300	1,827	2024.10期限 400食 2025.11期限 850食 2026.10期限 300食 2027.11期限 600食
	粉ミルク (キューブ)	対象年齢 0歳 1袋 27g×16袋=1箱 保存期間 1.5年	1,296	g	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160	2,145	期限1.5年毎年補充
	飲料水 (保存水) 500ml	全年齢対象 保存期間 5年・7年・12年	16,220	本				2,000	2,000	12,888	2024.10期限3,312本 2027.11期限3,000本 2028.10期限3,840本
生活必需品	哺乳瓶	対象年齢 0歳 240ml	9	本	6					15	
	紙おむつ (乳幼児用)	対象年齢 0~4歳 Mサイズ	456	枚		116	116	116	116	312	2024.05期限 164枚 2025.06期限 256枚
	紙おむつ (大人用)	介護認定3以上対象 M・Lサイズ	2,436	枚		100			100	306	2024.05期限 816枚 2025.03期限1,620枚
	生理用品	対象年齢 10~49歳女性	1,440	枚	690	690	690	690	690	1,365	2025.04期限1,440枚
	毛布		1,255	枚						716	2011.12備蓄324枚廃棄
	寝袋	75×185	722	個						716	
	保温アルミシート	1,000×2,000	150	枚	200	200	150			716	
	組立式簡易トイレ本体 (便座)		34	個						14	
	ラップポントイレ	WT-4	20	台						24	不足分は簡易トイレ使用
	非常時用排便収納袋 (スケットイレ)		11,500	回						3,580	
	ラップポントイレ収納袋	Bタイプ	1,950	回	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	10,750	不足分はスケットイレ使用
	救急セット	10人用 (3年保存)	14	個	12	12	(詰替)12	(詰替)12	(詰替)12	36	2025.01期限 7個 2026.06期限 7個
防災用資機材	LED非常灯	スミス、イクシンライト	21	台						29	不足は投光器代用
	LED懐中電灯	LEDライト 電池式	42	個						29	
	防災用ラジオ	手回し充電式	42	台						29	
	投光器	耐震型ハロゲン (250W×1,500×1)	22	台						15	
	カセットコンロ	3.5kw 3,000kcal	42	台						29	
	カセットボンベ	カセットコンロ1台当たり3本	200	本			30		40	87	2025.10期限 27本 2026.06期限 108本 2028.10期限 51本
	対流型石油ストーブ	電池式	114	台						84	
	灯油用ポリタンク	200用 1台1日1個	65	個	19					84	
	ガソリン発電機	定格出力 (現在ある発電機2.4kVA)	11	台						8	
	コードリール	全天候型	11	個	5					16	
	燃料用携行缶 (ガソリン用)	200用	11	缶	5	5	3			24	
	LPG発電機	定格出力 900wVA	5	台						8	不足はガソリン 発電機代用
	LPG発電機用カセットボンベ	LPG発電機1台当たり6本 0℃以下使用不可	52	本				50		48	2029.02期限 66本
	拡声器	防水使用、メガホン (ハンド型)	17	台						15	
	ブルーシート (防水シート)	3.6m×5.4m	28	枚						15	
	土のう袋	ビニール60cm×54cm	5,060	枚						5,000	
	バール	900mm 主要指定避難所各1	5	本	3	3	3			14	
	ジャッキ	油圧3t 主要指定避難所各1	5	台	3	3	3			14	
	のこぎり	折込330mm 主要指定避難所各1	5	本	3	3	3			14	
	スコップ	剣先 主要指定避難所各1	5	本	3	3	3			14	
電源タップ	延長コード 主要指定避難所各1	15	本						14		

### 年度別備蓄計画 (R6～R10)

区分	品名等	対象年齢等	既備蓄数	単位	R6	R7	R8	R9	R10	備蓄目標	備考
					2024.04 ～ 2025.03	2025.04 ～ 2026.03	2026.04 ～ 2027.03	2027.04 ～ 2028.03	2028.04 ～ 2029.03		
感染症対策物品等	不織布マスク	全年齢対象	52,499	枚						4,296	
	簡易トイレ用テント	全年齢対象	12	張	6	6				24	ワンタッチテント代用
	環境除菌洗剤	520mℓ	72	本						72	
	手指用消毒液	500mℓ (3年保存)	202	本	50	50	50	50	50	144	2023.08期限 126本 2025.03期限 108本
	フェイスシールド	48.5～64.5cm	392	枚	40	40				480	
	使い捨て手袋	Lサイズ	4,300	組	150	150	200			4,800	
	ペーパータオル	シングル中判サイズ	28,000	枚						24,000	
	段ボールベット	200×90×35cm	93	組	30	30	30	30		203	75歳以上対象
	簡易ベット	190×74×46cm 100kg	125	台	70	70	70	70	70	513	75歳未満対象
	問仕切り	ワンタッチパーテーション	200	組	40	40	40	40	25	422	
	防護服上下	Lサイズ	100	組	50	50	50	50	50	360	
	工場扇	φ45cm	20	台	6	6				32	
	スポットクーラー	排熱ダクト付 (首振り) 100V	0	台	2	2	2	2		8	
	体温測定器 (入口用)	皮膚赤外線	3	台	1	1	1	1	1	8	
	非接触型温度計	皮膚赤外線	10	台						8	
	床敷クッション(アルミマット)	1,000×2,000	650	枚						422	